

Asia Forum on Magnetism から AUMS 発足へ

第5回アジアフォーラム報告とアジア磁気学会連合の設立

企画委員長(当時) 高梨弘毅(東北大学)

第5回アジアフォーラム(The 5th Asia Forum on Magnetism)が、去る2008年10月17日(金)に中国・北京のセントラルガーデンホテル(北京中苑賓館)で開催されました。アジアフォーラムは、日韓や日台など個別に行われている交流を統合し、アジア諸国の磁気に関わる研究者が一堂に会して情報交換する機会を提供する場として設立され、第28回学術講演会(2004年、沖縄)のときに第1回が開催されました。以後、第2回が2005年に韓国のYongpyongで、第3回が2006年に島根で(第30回学術講演会と同時)、第4回が2007年に台湾のDouliouで、というように毎年各国持ち回りで開催され、今回第5回が中国・北京で開催されたわけです。

これまでのアジアフォーラムは、通常各国から推薦された招待講演とともに一般講演の募集も行っていましたが、今回は中国側の事情により招待講演のみのフォーラムになりました。日本、韓国、台湾、中国の4ヵ国合わせて全体で44件の招待講演があり、参加者は一般聴講者も含めて70名程度でした。日本側としては、本学会の企画委員会から推薦された10名の招待講演者が参加しました。

フォーラムは、組織委員長である安泰科技(Advanced Technology & Materials Co., Ltd.)副社長の周少雄(Zhou Shaoxiong)氏の開会挨拶から始まり、午前中に基調講演が行われ、午後は4つのカテゴリーに分かれての平行セッションでした。4つのカテゴリーとそれぞれにおける日本側招待講演者は以下のとおりです(敬称略)。

A. Hard and soft magnetic materials

(九工大・竹澤昌晃、東北学院大・嶋敏之)

B. Magnetic recording and magnetic sensor

(東北大・高橋研、日大・中川活二、東北大・Simon Greaves)

C. Spintronics and its applications

(東大・大谷義近、京大・小野輝男、東北大・高梨弘毅)

D. Bio-medical and environment applications of magnetic technologies

(東北大・松木英敏、東海大・内川義則)

各セッションに分かれると参加者はそれぞれ20名弱で、比較的少人数のフォーラムになりましたが、それだけに密度の濃いディスカッションができたように思います。

今回のアジアフォーラムでは、アカデミックセッションと並行して、「アジア磁気学会連合」設立に関するミーティングが行われました。ここで、「アジア磁気学会連合」について説明しておきましょう。実は、2007年に台湾で開催された第4回アジアフォーラムにおいて、アジア諸国の磁気関連学会がより有効的に連携していくために、アジ

アフォーラムを発展的に解消し、新たな連合体を組織することが提案されました。そこで、この提案について、日本、韓国、台湾、中国のそれぞれの磁気関連学会で検討を行い、北京の第5回アジアフォーラムで案を持ち寄り、具体化することが決められていました。このことを受け、本学会でも、企画委員会と理事会が中心となり検討を続けてきました。そして、新たに設立されることになった連合体が、「アジア磁気学会連合」(Asian Union of Magnetics Societies: AUMS と省略)です。(ちなみに、以上の経緯は、2008年5月に行われた本学会通常総会においても説明され、承認を受けています。平成19年度通常総会資料、20ページをご参照ください。)

AUMS に参画するアジアの磁気関連学会とは、当面以下の4学会です。

日本磁気学会 (Magnetics Society of Japan: MSJ)

韓国磁気学会 (Korean Magnetics Society: KMS)

台湾磁気技術協会 (Taiwan Association of Magnetic Technology: TAMT)

中国磁性材料および応用学会 (Chinese Society of Magnetic Materials and Application: CSMMA)

AUMS 設立に関するミーティングでは、各学会からそれぞれ3人の代表が参加し、具体案について話し合いました。本学会からは、理事会の委託を受け、副会長の高橋研氏(東北大)、企画委員長である私、それから中川活二氏(日大)が参加しました。そして、討議の末、アジアフォーラムは今回(第5回)で終了させ、2009年1月1日をもって AUMS を設立し、今後は AUMS が中心となって新たな連携活動を行うことが決まりました。また、AUMS の初代 President として、参加者の互選により、高橋研氏を選出されました。

本学会としては、来年度より新たに国際化担当委員会を設置し、AUMS による国際連携活動を強力に推進していく予定です。会員の皆様方のさらなるご協力を期待いたします。